

未来志創

よし！廣晴ろう！

今週は芝中の生活五目標を見直す期間です。今日のテーマは時間です。「時間を守る」ことを積み重ねることで「約束を守る」意識を習慣にしたいですね。昨日の話とつながりますが、これも「練習」です。ぜひ、「時間を守る」ことを上手になりましょう。行動あるのみです。

あなたが上手になりたいことは…？

オウムを育てるのが大好きな人がいました。ある日、彼はとても特別なオウムを育てようと思いました。そこで、オウムの卵を2個買ってきました。やがて卵からヒナがかえりました。彼はそのヒナたちを育て始め、自分が知っているすべてのことを教えました。ニュートンの法則や数学の公式、音楽も教えました。オウムたちが大人になるころには、とても複雑な公式も暗記していました。文学作品をそらんじたり、ベートーベンのシンフォニーを完璧に歌うこともできました。

ある日、不幸なことにオウムの飼い主が亡くなり、2羽のオウムだけが取り残されました。飼い主の親戚がかごのなかのオウムを見て、外に逃がしてやろうということになりました。親戚たちはオウムを窓のそばの木に乗せました。かごの外へ出たオウムたち。彼らにとって、初めての外の世界でした。

木の上のほうには、もう1羽赤いオウムがとまっていました。オウムたちはこんな会話を始めました。「ぼくらは何でも知っているよ。文学も、音楽も、科学に出てくるいろんな公式も」それを聞いて、赤いオウムはたいそう感心しました。でもそのとき、猫が近づいていることに赤いオウムは気付いたのです。

猫もオウムたちに気付き、気をよじ登り始めました。赤いオウムは、2羽のオウムに「飛び方を知っているか」と尋ねました。そう聞かれた2羽のオウムは

「もちろん知っているよ。飛ぶことなら何でも知っている。羽の下の気圧が上の気圧より高くなって飛ぶことができるんだ」

「ぼくが言っているのは理論ではない。本当に飛べるのかと聞いているんだ」

「いいや。でもぼくたちは、いろんなことを知っている。難しい公式も、シンフォニーも。本当の飛び方は知らないけれど、それがどうしたと言うんだ」

その間にも猫がどんどん近づいてきたので、赤いオウムは羽をはばたかせ、

「元気でな。君たちの知らないこと。それを君たちは知るべきだったんだ。それを知らないかぎり、ほかのことをいくら知っていても何の役にも立たないよ」

そう言って飛び立っていきました。

『Pot with the Hole 穴の開いた桶』(Prem Rawat)

何でも知っていることは、素晴らしいことだと思います。情報があふれている時代なので、時には「知らない方がよかった」ということもあります。いずれにせよ、知っているだけで役に立つことは少ない気がします。知っていることを行動に移したり、誰かに伝えて助けになったりしたときに、知識が生きるのだと思います。皆さんが日々学び、知ったことも、きっとどこかに生かせる時がくると思います。「知っていてよかった」と思える時のために、多くを学びたいです。